

令和4年度 第2回境港市廃棄物減量等推進審議会

□ 日時：令和4年11月18日(金) 午後3時～午後4時30分

□ 場所：みなとテラス(境港市民交流センター) 中会議室

□ 出席者(敬称略)：

<審議会委員> ※◎…会長 ○…副会長

◎山本貴之 庄司 亨 古徳 寧 松本直樹

遠藤恵子 渡邊 昇 赤井栄作 木村雄二

※欠席委員：○岡田礼子 伊達勇介 有木恵子 大西勝代

<事務局>

渡辺 文(市民生活部長)

足立晴夫(環境衛生課長) 都田祐道(同課清掃センター管理係長)

岡仲一徳(同課主任) 山田雅弘(同課主任)

<株式会社東和テクノロジー>

清水文雄(環境エンジニアリング事業部次長) 中村由幸(同事業部リーダー)

□ 傍聴者：なし

□ 内容

1 開会

2 部長あいさつ

3 会長あいさつ

4 議事

(1)「境港市一般廃棄物処理基本計画」(案)について

「境港市一般廃棄物処理基本計画」(案)について、事務局が計画(案)を説明。

(2)意見交換

(渡邊委員) 境港市の令和3年度における1人1日平均排出量は1,016.3g/人/日になると思うが、目標とされている813.8g/人/日との関係が良くわからない。

(事務局) 許可資源ごみを除いた量の令和3年度実績が847.1g/人/日で、それに対する目標年度の令和9年度が813.8g/人/日になる。

(渡邊委員) 境港市の最終処分率が低いのは、リサイクル率が高いことと連動しているのか。

(事務局) 3-8 ページにあるように、鳥取県内の市町村と比較しても、境港市の最終処分率は低い。以前は焼却灰を埋め立てていたが、セメントの原料としてリサイクルすることで、最終処分率低下につながっている。西部広域の市町村に共通している。

(渡邊委員) 3-9 ページのごみ処理経費を拝見すると、年々増加している。住民1人あたり処理経費とごみ1トンあたり処理経費の差はどのような関係にあるのか。

(事務局) ごみ処理経費には、収集運搬費、資源化処理費、人件費等があり、年々増加傾向にある。処理単価、人件費等があがっているのが要因のひとつで、広域化に向けて、これから西部広域で施設整備を進めていくことになるが、その負担金が増加しているのも要因として考えられる。

(渡邊委員) ごみ処理にかかる経費と市民負担の金額の差は、どのような対応をされているのか知りたい。

(事務局) 市民の方からご負担いただいているごみ処理の手数料、税金、補助金等で賄っている。

- (渡邊委員) 3-10 ページのごみ処理の評価を拝見すると、境港市の取り組みの評価としては良いと思った。これ以上取り組んだ場合、市民への負担増につながることも考えられるが、市としての考えはいかがか。
- (事務局) 分別の数を多くすれば良いというわけでもなく、分別を増やせば手間も人手も収集車両も必要となる。CO2 排出量の増加にもつながることなので、どのあたりに落ち着かせるのか検討が必要である。今回の計画策定の中で、ごみの組成調査を実施した。その分析結果を基に、生ごみの削減を重点的に実施していきたいと考えている。また、ごみ処理の評価について、リサイクル率、最終処分率は良い値だが、1人1日当たりのごみ排出量は、全国平均よりも高い値にあるため、重点をおいて取り組んでいく必要があると考えている。
- (渡邊委員) どのような施策を考えられているのか。市民負担が増えるのだろうか。
- (事務局) 生ごみ、食べ残しなど家庭で取り組みやすいことから重点的に取り組んでいきたいと考えており、市民に大きな負担をかけることには考えていない。
- (渡邊委員) 生ごみ削減の具体策はどのようなことを考えているか。
- (事務局) 概要版の 2 ページに示している通り、生ごみの水切りは現在も推進しているが、さらなる呼びかけが必要。また、生ごみ分別収集グループを通じた活動を行っているが、さらなる活性化が必要だと考えている。県と協力し、余っている食品を必要な人たちに寄付するフードドライブの活動の推進も重要だと考えている。
- (渡邊委員) 水切り推進は、個人的には働いている人たちにとって、難しいのでは。人によって差が出てくると思う。市民に協力をお願いするよりも、市が主体となって進める施策があっても良いかと思う。また、CO2 削減の話も重要である。
- (山本会長) 概要版 4 ページにある家庭系収集ごみは平成25~27年度にかけて減少し、リサイクル率は同時期に増加している。この時期に軟質プラスチック類の資源化がはじまったと記憶している。人間の実施することなので、リサイクル率としては、ある一定の数値までは効果が出ているが、それ以降は頭打ちになっている傾向が見られる。軟質プラスチック類の資源化が成果として表れていると思うがいかがか。
- (事務局) おっしゃる通りで、成功事例のひとつだと認識している。
- (遠藤委員) 以前、家庭の生ごみを減量する装置を販売に来られたことがあり、欲しかったが高価だったため断念したことがある。新聞記事でこのような設備に対して、補助金を交付している自治体もあるというのを拝見した。生ごみを 4%減らしていくためには、何か効果的な取り組みを実施しないと難しいのではないかと思った。
- (事務局) おっしゃる通りで、生ごみ減量化設備に対して補助金を交付している自治体もある。また、生ごみを分別している家庭に対しては、ごみ袋を無料で配布する自治体もあるようなので、これらを含めて調査研究中である。
- (渡邊委員) 岡山県真庭市の事例も参考になると思う。
- (庄司委員) 以前、生ごみ処理設備を、公民館単位に設置し、市民が生ごみを持ち込んで堆肥化するという機会もあった。
- (山本会長) 生ごみ処理設備には、電気を使わないコンポストもあれば、電気式の設備もある。トータルで考えて、何が良いのか検討したこともある。
- (古徳委員) 3-37 ページに清掃活動の実施、支援とあるが、市としてどのようなことを実施されているのかお聞きしたい。芝町で自治会長をしているが、耕作放棄地が多く、ポイ捨てが多い。自治会として清掃活動を実施しようという気運もあったが、市からは地主の責任と言われ、現在は自治会の有志で清掃活動を実施している状況で、活動範囲に限界を感じている。どんな支援があるのか、現在行われていることがあれば教えていただきたい。

- (事務局) 私有地は、地権者による処理が原則で、地権者から協力要請のあったものに対して、市の施設で処理ができるものであれば無料で受け取っている。市で処理できないものは産業廃棄物の処理場に搬入することになるが、地権者協議による。私有地なので、地権者の許可なく処理することができないのが実情である。
- (古徳委員) 集めたポイ捨てごみを置く場所を確保していただけないだろうか。個人ボランティアだと、処理場に搬入できる量も限られ、移動に労力がかかる。近場に保管場所があって、トラックで搬入できれば、同じ時間の作業で効果が高まる。ボランティアしやすいような支援があればありがたい。
- (事務局) ボランティアで回収いただいたごみを市が回収することは可能だと考えている。個別に打ち合せさせていただいて、我々としても協力していきたい。
- (渡邊委員) 1-3 ページにあるように、法的に市として処理できないごみがあるのが実情だと思われる。市の管理下で適正処理できる仕組みづくりが必要だと思う。
- (古徳委員) びん、かん、ペットボトルが目につくので、これらを減らしていくことでだいぶ違うと思う。
- (赤井委員) 概要版の 5 ページ、計画の進行管理はどのくらいのタイミングで実施していくのか。
- (事務局) 今回の見直しと同様、審議会の皆さんからのご意見を伺い、見直しが必要となった場合は、見直しを図っていききたい。しばらく審議会を開催できていなかったが、今後は、定期的な開催を考えている。
- (赤井委員) 発泡スチロールは、計画の対象になるか。
- (事務局) 家庭からでた発泡スチロールであれば軟質プラスチック類として収集しているので、対象に含まれる。事業所からの物は産業廃棄物になるので、対象にならない。
- (赤井委員) 市場が新しくなって、以前は発泡スチロールを再利用できていたが、今は、新品しか使用できない。少しの時間使用したもので処分されてしまうので、疑問がある。
- (庄司委員) 本編 3-8 ページに市町村比較のグラフがあるが、日吉津村が高い要因は何か。
- (事務局) 日吉津村は、少ない人口に対して、イオン、王子製紙等の大規模事業所からの多量排出がその要因である。
- (山本会長) 概要版の 5 ページに脱炭素先行地域に選定されたとの記載があり、もっとアピールしても良いと思う。ごみの収集、施設稼働等による電気、ガス、ガソリンなどから計算される CO2 排出量について、その値を示しても良いのではないかと。本編 3-27 ページの食品ロスのコラムは、とても大切な内容だと思う。50%は家庭からの食品ロスであることをもっと知ってもらう必要があると思う。
- (事務局) CO2 の排出量は、市の事務事業として集計しており、毎年減少傾向にある。ごみに関する部分も集計しているので、見えるような形でお示ししたい。また、ごみ処理の一元化に向け、西部広域が策定している基本構想では、CO2 削減を取り入れたものになっている。食品ロスの話など、絵や写真等を使って、市民に読みやすいものにしていきたい。
- (渡邊委員) 脱炭素、食品ロス削減への取り組みは、企業は実施しつつあると思う。我々が事業化している事業系生ごみの量もだいぶ減少しているが、家庭に求めていくのはハードルが高いと思う。
- (木村委員) この計画は、題目にある通り、廃棄物の削減と適正処理に関する計画であり、家庭レベルでどこまでの内容を記載するのが良いのか。割りばしやペットボトルの蓋を回収し資源化する、おむつは資源化するなどのレベルの話が盛り込まれていれば良いのかと思うので、今記載いただいている内容で良いのかと思う。また、市として何をするのか。米子市でも委員をしているが、米子市では生ごみの処理設備設置に対して補助金を交付している。買い物袋、マイボトル、マイ箸など、企業と連携してごみになるものを資源化するなど、何ができるのかをこの審議会で議論することが重要ではないかと思う。
- (事務局) どこまで記載するかを含めてご議論いただければ、計画の中にも盛り込みやすい。

- (松本委員) 社会福祉協議会では、フードエイド事業として、生活保護にはならない低所得者、高齢者等の要望に応じて、寄付いただいた米や缶詰などを提供している。以前松江市でも実施していたようだが、コンビニと連携している自治体もある。乾物だけでは要望に対応できないところもあるので、食品ロスの観点からも、境港独自の取組みを実施していけたらと考えている。
- (山本会長) 環境基本計画策定の際も、具体策をどこまで盛り込むのか議論したことがあり、検討課題だと思う。
- (木村委員) リサイクルの取り組みとして、子ども会や自治会では何か活動はされているのだろうか。
- (事務局) 本編 3-25 ページに廃品回収奨励制度の話に記載しているが、今後も持続的に継続していきたい。
- (山本会長) 今回提出いただいた本編の計画案、概要版は、皆さんの意見を踏まえ、次回、修正案を事務局より提出いただけるということよろしいか。
- (委員) 了承。

(3) その他

- (事務局) 次回の審議会を12月19日の週に開催できればと考えており、ご希望の日を返信いただきたい。また、市民、事業者アンケートについて、調査票を10月末に発送しており、順次返送されてきている。現時点での回収率は全体で44%、うち市民からは45%、事業者からは41%が返送されている。調査の回答結果については改めてご報告したい。

以上